



さかえ

令和2年
1月号
第434号

発行／栄村役場



謹賀新年

明けましておめでとうございます。
本年が皆さまにとりまして、希望に満ちた年
でありますようご祈念申し上げます。
今年最初の表紙は、未明の新雪を美しくま
とった切欠集落の様子です。

写真提供：若狭久男

主な内容

- 年頭のごあいさつ……………P 2-4
- 村長選挙及び議会議員補欠選挙についてほか…… P 5
- 武蔵村山市駅伝・県縦断駅伝についてほか…… P 7
- 民生児童委員改選についてほか…………… P 8
- さかえ雪ん子まつり開催についてほか…………… P 11
- 議会議員倫理問題について…………… P 14
- 農業委員会だより「のぞみ」(第86号)…………… P 16-17
- 公民館報(第332号)…………… P 18-25



新年のごあいさつ

会長 渡辺利正

のぞみ

栄村
農業委員会だより

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新たな抱負と希望を抱き新年を迎えるにあたり心よりお喜び申し上げます。

農業委員会法が平成28年4月1日に改正となり、新体制となつて3年が過ぎようとしています。委員会の業務も、農地集積、集約、耕作放棄地発生防止解消、地域における現場活動、農業者との話し合い、意見交換等が義務付けとなりました。農業従事者の高齢化、人口減少が進む中では地域、集落での体制づくりが必要と思えます。昨年を振り返ってみますと、地球温暖化が進み、気候変動等で自然災害が非常に多く、記録的な強風、集中豪雨による全国各地で甚大な被害が発生しており、村でも台風19号で家屋の浸水、道水路、農地、農産物等に大きな被害を受けました。被害に合われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

台風15号、19号の災害を受け、北信地域15市町村農業委員長と県選出国会議員6名との懇談会を行い、被害に対して復旧へ向けた支援策の拡充と支援を求めています。少子高齢化に伴い担い手、後継者不足、地球温暖化、自然災害、食料自給率の低下(37%)、TPP、EPA、FTA等自由貿易協定等による農畜産物の価格の不安定、食の安全、安心等様々な課題が山積しており、農業を取り巻く環境は大変厳しいのが現状です。国の農業政策に期待します。こうした状況下ではありますが、先人の築いた農地、技術を継承し地域農業の発展に委員一同努めてまいります。皆様のご指導ご協力をよろしくお願い致します。

最後になります。皆様のご多幸、ご健勝を心より祈念申し上げます。まして、新年のご挨拶と致します。

青色申告を始めるには、まず何をすればいいの？

新たに青色申告を始めるためには、個人の場合、**3月15日までに、最寄りの税務署に「青色申告承認申請書」を提出**する必要があります。この申請を行えば、その年分の所得から、青色申告を行うことができます(申告時期は翌年2~3月)。

農業者の皆さん 青色申告を始めましょう!

- 青色申告を行う農業者(個人・法人)は収入保険に加入できます。
 - 収入保険は、全ての農産物を対象に自然災害や価格低下などによる収入減少が生じた場合に補償する保険です。最寄りの農業共済組合に相談願います。
 - 青色申告の相談は、税務署にお問合せください。
- 収入保険は農業収入の減少を広く補償します!**

No.86

(発行)
栄村農業委員会
(編集)
農委編集委員会

「農業者との意見交換会」開催

令和元年
11月27日



栄村農業員会では村内の農業者との意見交換会を栄村役場で開催しました。集落営農組織の代表者、認定農業者、新規就農者、一般の農業者に呼びかけをしたところ、農業委員を含め24名の参加者がありました。オプザーバーとして長野県北信地域振興局農政関係者4名を交えて、農業が抱える問題等活発な意見交換会が行われました。意見交換会で出された意見を抜粋してお知らせします。

農業者A

ふるさと納税の返礼品で特A米の精米、発送作業を外部発注してしますが、できるだけ村の中で循環できるように、村のライスセンターで施設の整備をし、そこで製品化して外部への発送する方法が考えられないか。

農業者B

村内に米など保管できる施設を整備する必要があるか。保管施設があれば直売所や色々などところで販売も可能になるのではないか。個人や組合という縛りでなく、村や農業委員会を中心として長期ビジョンを立て将来の農業をどのように進めていくか話し合いを重ねないと栄村の農業の存続は難しくなる。

青年就農者C

若い人の参入が必要ですが、若い人がいない。栄村の長期ビジョン計画では新規就農者を毎年2人、移住者を毎年1人増やす計画があったと思う。しかし増えていない。新規就農者の参入や農業をやってくれる定住者を募集していく対策が必要だ。その為に儲かる特産品となる農産物を、農業者みんなで作っていく事も必要だと思っています。

農業者A

この地域でどういう農業が理想なのか。その基本路線があって、それ

農業者B

をどのように商業的に繋げていくかを考えていった方が良くのではないか。いきなり法人化して皆さん儲けてくださいと言っても非常に難しい。ある程度の団体が一緒になって、更に大きな経営規模で物事を考えなければ続かないのではないかと思います。

農業者B

集落営農など機械や施設の更新をしたくても資金がない。他に働きに行つて収入を得たほうが良いのが現状である。栄村の農業は産業化にしたら良い。震災時にキノコ生産者も被災し、資金面から生産が続けられなくなり辞めた人もいる。そういう農業の専門家は栄村に居る。そういう方から第一人者として、未来に残せる農業として活用することを考えていかなければならない。その人たちの活用し工場化するとかして、担い手や新規就農者の確保に繋がるのではないかと思う。

農業者C

今まで色々な事に取り組んだ農業の専門家は沢山いる。そういう人たちのノウハウをもっと生かせないのか。雇用などの掘り起こしみたいな所にもう少し目を向けた方が良くと思います。農業委員会や村がバックアップする形が何故取れないのかと思います。

農業委員

新しい企業組織をつくるためには専門知識を持った経営者に入ってもらわなければならぬ。今まで失敗しているのは経営者がいない組織の法人だからうまくいかない。農業会社なりを作つて、そこで皆で一緒になつてやつていかなければならない。一本化には行政に引張つてもらわないと、各集落では一本化はできない。

農業委員長

本日は大変貴重なご意見をいただきました。一つ一つの課題は大変厳しいものがありますが、本日の意見を参考にし、農業委員会で話し合いをしながら人・農地プランの作成などに合わせて進めていければと思っております。



心を寄せて



台風19号で甚大な被害を受けた長野県。ニュースから映し出される情報に心がざわつき、涙を流し、被災された方々に心を寄せたことではないでしょうか。そして、「なにかできることはないか」と村内、飯山、中野、長野へとボランティアに参加された村民もたくさんいらっしゃったことと思います。

被災地のひとつ、長野市穂保地区の避難所、長野運動公園体育館で昨年の11月18日に栄村より炊き出しを行ったグループ『おひさま』から情報をお伝えします。

当初、飯山の避難所に伺う予定でしたが、飯山で需要がなくなり、長野ボランティア



イアセンターからの依頼により穂保地区で炊き出しをする事になりました。

夕方から、体育館の外にテントを張り、「おひさまケチヤップ」に続く商品の、「ズ

ツキーニのトマトソース」を使ったパスタを、テントの中で調理して100食提供しました。

「おいしかったよ」「温かいものを久しぶりに食べたよ」「パスタ食べたのいつ以来だろう」「粉チーズ被災以来だわ」「栄村の地震の時避難所にリンゴ届けたんだよ」等々わざわざ室内からテントまで足を運び声をかけてくださる方がたくさんいらっしゃいました。明らかにパスタと無縁の（普段はあまり口にしないであろう）殿方も喜んでくださいました。召し上がられた方が、後ほど家族に食べさせたいから作り置きしておいてほしいとの要望もあり、うれしい限りでした。ほんの少しの提供時間にさまざまなドラマが生まれました。

公民館報

七かえ

第332号

令和2年1月1日発行

■発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

■電話
0269-87-2100

■編集
栄村公民館報編集委員会

新年あけまして おめでとうございます

今年も栄村民と世界の人々が健康で幸せであることをお祈りします
栄村公民館報編集委員一同



栄村の震災から9年を目前にして、避難生活を思い出し、あの時にたくさんの方の支援を受けたご恩返しが少ないのできたかなと思いました。

(斎藤)

こらっせ通信

● 自然学校で大根つぐらとクリスマスリース作り

第6回目の自然学校が、昨年12月15日に開催されました。題して「冬支度にチャレンジ」。これまでの冬支度では「大掃除としめ縄づくり」といった内容でこらっせ中を手作りハタキでホコリ落としをしたり、米ぬかで床磨きをしたり、外の雪囲いの板をはめたりしました。

今回は、大根つぐら作りにチャレンジ。大根つぐらはデーコッツグラとも呼ばれ、多くの家庭で作られています。『栄村の民俗第1集 冬と生活』の食料の保存に次のように記載されています。

● **ダイコン** ワラ製のツグラが用いられる。戸外に直径約1メートル前後のツグラを作って底にイナワラのスベを敷いてその中に大根を入れる。並べ方に特にきまりはない。スベはイナワラの葉の部分で、乾燥してやわらかく暖かい手

ざわりを持ち防湿、防寒などの用途に広く用いられる。

自然学校で大根つぐらを作るという情報を聞きつけ、6名の村民の方がかけつけてくれました。もう何年も作っているという方や、



名称 デーコッツグラ

『栄村の民俗第1集 冬と生活』より



自分でも作ってみたいという方々と、もちろん初めての子どもたちとで作り始めました。

子どもたちのほとんどは、ワラいじりの経験がありますが、こんな大きさの製作は不慣れで、一掴みのワラをひねるところはなかなか難しかったようです。講師や地元の方に手ほどきされながら、完成させました。最後にネズミ除けのための杉の葉を敷き詰め、大根を入れてまた杉の葉をかぶせ、最後にワラボッチを乗せて出来上がりです。中の大根は次回の自然学校で掘り出し、早そばの材料に使う予定です。



次に、クリスマスも近いのでリース作りをしました。こらっせの裏山に出かけ、思い思いに飾り付けた材料を探し歩きました。12月半ばというのに、スニーカーで歩けることに拍子抜けしてしまいます。とても集中して作品作りに取り組み、素晴らしいリースが出来上がりました。



こらっせ来館者数

・ 来館者(令和元年10月～11月末)
..... 402名
・ オープン(平成28年8月)から
の累計..... 7,749名

一石を投じる

給食を栄村産 オーガニック食材で

新年あけましておめでとうございます。毎回、夢のような石を投じているこのコーナーですが、今回は、より現実的な初夢の話です。

オーガニックという言葉、耳になじみがないかもしれませんが、農業や化学肥料を使わずに栽培した農産物のことです。(厳密には、国や世界に規格があり認定されるには越えなければいけない壁が数多くあるようです) その、オーガニック食材を給食に用いている学校が、全国に増えつつあります。その大きな理由は、効果は、何なのか、栄村で行うことの意義について考えてみたいと思います。

栄村の学校給食については以前にも公民館報で取り上げ、素晴らしい内容であることはお伝えしているところです。一昨年は全国学校給食甲子園ベスト24に選出されました。

審査の基準は次の項目だそうです。子どもが喜び郷土愛を育む献立であるか。

○関連資料から学校給食が食育にうまく活用されているか。

○地場産物を使用し、その特色を活かした献立であるか。(地場産物は特産物を意味しません。原則として地場産物の範囲は都道府県内産としています)

○献立の写真から見て、彩りや美味しさを感じさせる給食になっているか

等の項目をクリアしての入選です。栄小学校では村民向けに試食会を催しています。食材は栄村産です。



栄小給食 秋山分校での試食会

ふんだんに使った季節の献立で素晴らしいものです。その素晴らしい給食で、もっともっと豊かな栄村にしていこうというのがオーガニック給食なのです。



栄小給食 青空弁当

村全体で描く栄村の農業

栄村の基幹産業は？と問われると、やはり農業でしょうか。その大半は米、稲作であることは間違いありません。現在、稲作農家の努力により、特A比率や食味で高い評価を得ていますが、農業を専業とする人はごく一部です。もちろん専業であるべきとは言いません。

これからも栄村の基幹産業である農業がどのように発展していったらいいのか、方向を確かにするこ

とが重要ではないかと考えるのです。先般行われた村の稲作アンケートにも同様な意見がありました。村全体で描く目標を定め、特化した農業が求められると思います。

有機農業の推進に関する法律

(平成18年法律第112号)

(目的)

第一条 この法律は、有機農業の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、有機農業の推進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、有機農業の推進に関する施策を総合的に講じ、もって有機農業の発展を図ることを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「有機農業」とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。

(基本理念)

第三条 有機農業の推進は、農業の持続的な発展及び環境と調和のとれた農業生産の確保が重要であ

り、有機農業が農業の自然循環機能……。

日本にもこんな法律があります。有機農業の生産面積は日本の耕地面積の0・5%。2018年までに1%にするという目標には達していません。日本同様に農業大国と言われたお隣韓国では5%にまで急拡大を続け、ソウル市では、ほとんどの小中高校の給食が無償かつ有機栽培の食材になったそうです。ほかにもイタリア・フランス、国内でも愛媛の今治市や石川の羽咋市などの自治体や国が積極的に推奨し、「食」を政策の中心において考える方向になっています。人が生きていくうえで一番大切な「食」が中心。当たり前で当然の話。日本では「食」を犠牲にした見返りを享受することに浮かれ過ぎていく気がするので。(筆者も含め)

オーガニック給食が叶える多様性

2019年2月に「全国有機農業の集い2019 in琵琶湖」が開催され、オーガニック給食が叶えてくれるのは単なる「食の安全」だけでなく、地域農業の衰退

- ・ 農業資源の荒廃
 - ・ 農薬・化学肥料への依存
 - ・ 貧困と食の格差拡大
 - ・ 中食と外食の拡大
 - ・ 孤食、個食のひろがり
 - ・ 身近な食品店
 - ・ 商店街の衰退
 - ・ 伝統的食文化の断絶
 - ・ 食の不透明性の拡大
 - ・ 国及び地域の食料自給率の低迷
 - ・ 食を通じた地域の魅力づくり
 - ・ 食へのモラル低下
- これらの社会問題を解決する可能性が秘められているとした発表がありました。
- 例えば、栄村の給食では、すでに地元農産物を中心に食材を調達していますが、一年中栄村の有機農産物で賄うことができないでしょう。か。「地元の子どもたちのために安全で美味しい農畜産物を育てたい」という思いを共有することで解決できる課題が、いくつもある気がします。せっつえもん畑を有機栽培にし、そこから保育園、高齢者施設、観光施設、飲食店、等々。多くの現場と深くつながり、将来を思う村民が増えてくれば、活性化につながると思います。冬場の青物野菜や果物は？調味料類は？肉魚は？とクリアしなければならぬことはたくさんあります。

食と農・かきのきむら企業組合

私たちは島根県の西端、柿木村の有機農家の集まりです。

有機農業は生き方

柿木村は島根県西部にある人口1,500余人の山村です。平成17年に隣町の六日市町と合併し吉賀町となりましたが、村名は残っており、現在は吉賀町柿木村となっています。

合併前の柿木村は、高度成長に伴い過疎化に直面していました。農業では、化学肥料や農薬を使う近代農業が急速に広まる一方で、どこの田畑にもいたミミズやモグラなどの生き物が姿を消し始めていました。「いつか、わしらもやられる」そんな漠然とした不安を農家は抱えていました。さらにオイルショックも重なり、「自給をきちんとせずに金儲けだけを考えてはいけぬ」、「どんな時でも自給をベースにしていればなんとかなる」と考えるようになりました。 中略

いつか、あたりまえになることを願って

私たちは持続可能な暮らしを、未来の子供たちにバトンタッチしなければいけません。そのため、食と農・かきのきむら企業組合では消費者と共に、生産者の営農と生活、自然環境を守りながら、本来あるべき「農業」「食べ方」「暮らし方」を追求しています。

す。しかし、栄村には少し前まで一冬中食糧に困らない暮らしがあったはず。その多くは自給されました。貧しい暮らしでなく、誇れる暮らしがありました。数え上げると、穀類・味噌・豆類・イモ類・ネギ・白菜・キャベツ・カボチャ・根菜類・干し野菜・干しキノコ・塩漬け・味噌漬け。村民の会話の中では、具体的な食材やメニューがまだまだ出てきそうです。

100%栄村産にこだわらずおらかに近づけたらと思っています。左は「健康と有機農業の里」を掲げて、急がず、気負わず将来に夢を託す、食と農・かきのきむら企業組合の基本理念の抜粋です。栄村にも、持続可能な暮らしを実践しながらオーガニック給食に熱い気持ちを寄せる同志がいます。共感される方はぜひ栄村公民館または長瀬の樋水さんまで連絡をお待ちしております。

栄村は「消費する村」より「生産する村」が似合います。

あーそんなことがあったんか
 ど先生の栄村昔語り〜 其の三十六
 『江戸時代の年賀状』



地域史料保全有志の会
 鈴木 努 (通称: ど先生)
 イラスト作成: 佐藤洋平

年が改まり、正月を迎えました。皆さん無事年越しなさったことと存じます。新聞では、今冬は温暖化の影響で豪雪になるかもしれないと報じられていますが、暮れも押し詰まる頃まで意外に少雪になりました。もっともここ数年は年が明けてから大雪になることが多いので、少雪の冬で過ぎるかどうか、もう少し様子を見ねばなりません。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

年越しといえば、年末の大掃除やお飾りなど何やかやと準備があり、明けてからも色々行事がある訳ですが、これは今も昔も変わりません。

今回は鮭取りの話を少し離れて、正月の話題として、江戸時代の年賀状、当時の呼び方では年始状のお話しをしましょう。話しの種はこの欄で以前紹介しました箕作の島田家文書にあります「萬日記」からです。日記には、庄屋の家の正月三が日の様子がこのように書かれています。

延享二乙丑年

正月大朔日癸酉、黒日、天気吉寒シ
 本村不残年始、御礼相勤、盃酒
 先例之通

二日天氣吉、寒シ、中野飯山へ年始状認

本村寺へ年始、但手前より米三升、餅相添遣ス、晩謡初、伊勢守、五左衛門、団六参候、仙助ニ志シ、吸物鱈、酒数刻有之

三日朝風吹

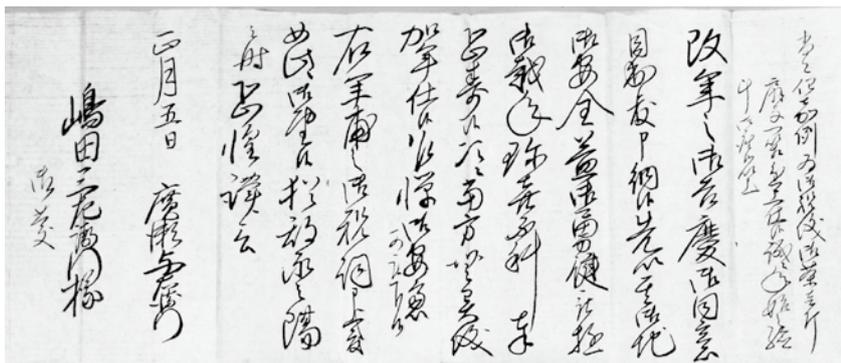
月岡、大卷、和泉平、小滝、野田沢、大久保、北野、長瀬年始不残参候、「虫喰い」之通振舞有

年明けから年始客の応接があり、本村の寺(常慶院と思われ)へ年始として米と餅を進上したり、なかなか忙しい様子です。二日の晩には、殿中のように「謡初め」を催しています。伊勢守を名乗るのは村の神主でしょうか。

この二日に、中野や飯山に宛てて年始状を書いています。現代の私たちの感覚では、年末に間に合わなかった年賀状書きをやっとこさ片付けているような印象ですが、江戸時代の年始状は年が明けてから書くものだったようです。同じく島田家文書にある年始状を見てみますと、某年正月五日に森村の広瀬家から送られた年始状には「その御地御安全に益々ご勇健にご越年遊ばされ珍喜料めならず」とか「当方異義なく加年仕り候、憚りながら御安慮下されたく」といった文言が書かれ、お互い無事に年越しをし、年齢を加えることができて目出度い、という挨拶になっていきます。そして、年始状のやり取りは賀詞だけでなく、贈答も伴っていることに特徴があります。

広瀬家の年始状は追記部分に「嘉例の祝儀として御茶一斤、扇子一箱を年始の験しとして進上する」とあります。もう一点、某年正月四日付けで飯山の善覚寺から届いた年始状があり、これは挨拶に添えて「御年玉を取揃え下され」た礼状も兼ねています。事例をさぐると、「日記」

の延享三年正月三日の条に、中野・飯山・善覚寺へ年頭の挨拶のため、それぞれ人を遣わしている記事がありました。前掲の常慶院に米や餅を贈った事例と同様に、善覚寺にも「御年玉」として進物をした様子が見えます。進物に添える賀詞として、年始状が機能している様子です。昔の年始状は、正月の儀礼のうち実際的な意味をもつて行なわれていたといえるでしょう。



広瀬与右衛門からの年始状

図書館だより

あけましておめでとうございます。新年を迎えると『今年は〇〇をしよう』と目標や抱負を考えるものです。今年こそ本を読みたい!と思っても、読書は『忙しくて…』と、なかなか実践できない方も多いのではないのでしょうか。でも読書と相性のいいこたつが出ている今がはじめ時。1日5分でも好きなテーマの本を開いてみては?

新着図書の紹介

オリンピックの終わりの始まり (谷口源太郎) / 支配の構造 (堤未果 他) / お甲いの現場人 (朝山実)
 最新日本の外来生物 (自然環境研究センター) / 「空き家」に困ったら最初に読む本
 9月1日 母のバトン (樹木希林、内田也哉子)
 筋肉のしくみ図鑑 (かたおか朋子) / 東田くん、どう思う? (東田直樹、山登敬之)
 サバ缶大百科 (落合貴子 他) / 後悔しない子育て (信田さよ子) / 福を招く干支のお針仕事
 惨事ストレスとは何か (松居豊) / シニアの骨粗鬆症・圧迫骨折を防ぐ! / 農業高校へ行こう!
 身近な人の介護で心がいきづまったら読む本 (高室成幸、鉦 裕和) / おやきの教科書 (小出陽子)
 あなたは嫌いかもしいけれど、とっておもしろい蚊の話 (三條場千寿、比嘉由紀子)
 罪の轍 (奥田英朗) / 無人駅で君を待っている (いぬじゅん) / もうすぐいなくなります (池田清彦)
 戦国の教科書 (天野純希、今村翔吾) / ゴミ清掃員の日常 (滝沢秀一) / 生き抜くチカラ (為末大)
 1の悲劇 (米澤穂信) / 流浪の月 (凧良ゆう) / 背中の蜘蛛 (誉田哲也) / 黙秘犯 (翔田寛)
 彼女たちの犯罪 (横関大) / 廃墟の白墨 (遠田潤子) / 教室が、ひとりになるまで (浅倉秋成)
 きみはだれかのどうでもいい人 (伊藤朱里) / 愚か者の分身 (西尾潤) / ごめん。(加藤元)
 むらさきのスカートの女 (今村夏子) / 妻の終活 (坂井希久子) / 落日 (湊かなえ)
 美しき愚かものたちのタブロー (原田マハ) / 犯罪小説集 (吉田修一) 他



- 賢者のおくりもの (リスベート・ツベルガー)
- たてる こうじのえほん (サリー・サットン)
- みまわりこびと (アスドリッド・リンドグレーン)
- しろくまのそだてかた (うつみのりこ)



★栄村図書館開放時間★

平日 午前8時半～午後5時
 土・日 午前9時～正午

★栄村図書館1、2月休館日★

1月1日(水)～5日(日)、11日(土)～13日(月)
 2月11日(火)、22日(土)～24日(月)

村内移動図書館巡回中

本格的な降雪シーズンに突入し、利用者も増えてきました。警報が出るような荒れた天候の場合、巡回を見合わせる場合がありますのでご承知ください。詳しい時間は、11月に配付した巡回表をご覧ください。ただか、栄村公民館図書館 (☎87-3118) までお問合せください。

なお、3月最終の週は曜日がいつもと違いますのでご注意ください。

地区	東部	西部 栄水内	秋山
1月	8日(水) 22日(水)	9日(木) 23日(木)	10日(金) 24日(金)
2月	5日(水) 19日(水)	6日(木) 20日(木)	7日(金) 21日(金)
3月	4日(水) 17日(火)	5日(木) 18日(水)	6日(金) 19日(木)



高校を卒業後、7年間ほど新潟県の十日町市で林業の職に就いていましたが、地元の秋山に戻ってからは、栄村森林組合で林業の職に就いています。

林業は危険を伴う作業や過酷な環境での作業もありますが、やりがいを感じられる仕事だと感じています。

そんな中、縁もあり3年前に結婚し、11月には待望の第一子が誕生しました。

これからは家族を支える父親としても、今まで以上に安全意識を高め、更に意欲的に仕事を続けていけたらと思っています。

山田裕樹 (30歳) 小赤沢

村民広場



県外の大学を卒業後、村内での就職を希望して帰省し現在村の社会福祉協議会に勤めて3年目になります。『福祉』という仕事の難しさに戸惑いながらも、村の魅力を生かせる

良い仕事であると実感しています。

プライベートでは昨年から小学生の野球のコーチをし、地元の神楽の獅子舞にも取り組み始めました(獅子舞の笛は大学在学中から)。

帰ってきて改めて気づく村の良さを実感しながら、今年も仲間と楽しく過ごしていきたいです!

上倉昇悟 (26歳) 箕作

今月の一句 ~栄村俳句会~

足元を犬が見守る凍つる道

杉浦恵子

別れあり寂しく過ぎる十二月

大塚幸一

起きぬけの苦情電話や年詰まる

津高里永子

菩提寺へ続く坂道石落の花

柳 静江

レモングラス香りゆたかに冬の朝

馬場澤子

冬桜あばれ千曲川の河川敷

関谷貞子

雪しんしん照らす外灯真夜の村

斎藤はる子

スーツ着ておしゃれと言はれ冬うらら

福原勇一

古里の唄の笑顔や忘年会

山田せき

病床の夜の長さは妻恋し

山田政治

俳句募集のお知らせ

日々の思いに心を込めて、これぞ!という俳句を詠んでみませんか?詠んだ句は栄村公民館までお送りください。公民館報に掲載いたします。川柳でも構いません。

(応募者多数の場合など、掲載ができないことがあります。ご承知おきください。)

【連絡先】 栄村公民館 ☎87-2100

稲作を主にホップ栽培、繁殖牛飼育をした。どちらも輸入品に圧されてうまくいかなかったな。大根栽培、加工トマト、ゴボウにインゲンなどいろいろやったな。エノキ栽培をしていたころ火災にあいエノキ小屋と母屋全焼したことがあった。皆様にお世話になりました。栄村農協組合長も務めた。ほんとにいろいろあった。若いころに喘息を患い入院繰り返した。こんなに長生きするとは思わなかった。今までついてきてくれた妻には感謝しかないな。今までの人生を漢字一文字で表すとしたら「信」かな。信じて信念をもって生きてきた、ということかな。冬はわら細工。初冬の大根つぐら作りから始まり、野沢温泉の火祭り用の履物。ワラグツ作り。長く続けていると毎年のように取材が来るし注文も絶えない。迷わず淡々と信の心で続けるだけだ。



関澤義平さん (86歳) 笹原

笹原に生まれ育って86年。4、5年出稼ぎに出たけど、ずっとここで暮らしてきた。大変だったことは小学校低学年から雪下ろしで屋根が上がった、雪との闘いかな。大変だったがここから離れようとは思わなかった。父親が亡くなってから先祖に感謝を込めて般若心経を唱えている。

おおきくな〜れ



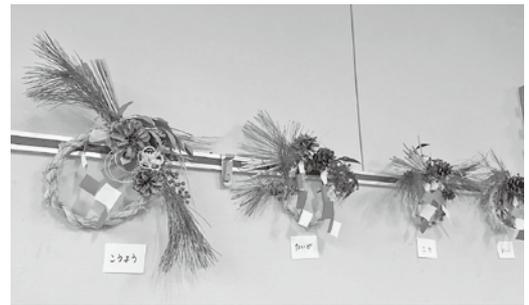
明里ちゃん(4さい)

折り紙と鬼ごっこあそびが大好き！

強く優しい心をもっていろいろなことに挑戦してね。
宮尾幸則・紀子さん宅(白鳥)

北信保育園で稲作

なんと、春のスジ蒔きから手掛けたという本格的な米作り。年長さんを中心に田植え、草取り、稲刈り、脱穀、木臼で粳摺りまでやり遂げました。本格的な田んぼではないので水路も無くバケツで水くみが大変でした。先日皆で協力しあいながらしめ縄も作りしました。素晴らしい出来栄でしょう。



ついでに講習会のお知らせ

栄村つぐら振興会によるつぐら講習会が左記の日程で開催されます。冬の小さくにあそびに来ませんか？

- 日 1月19日 2月16日
 - 時 10時から3時ごろまで
 - 場 栄村公民館 こらっせ
- ※途中参加・途中退出OKです。



昨年12月18日開催の栄村つぐら振興会総会の様子

公民館講座

心の抱っこ

巻頭に、災害の情報に触れ、心がざわつき、涙を流し、心を寄せたことを記しました。人の心はさまざまです。同じ行動をとられても、同じ言葉をかけられても、その時の心持ちで感じる気持ちや行動が違います。「気持ちを抱きしめよりよい人間関係を築いていくためのメソッド」心の抱っこを体験してみませんか。

栄村公民館では日本抱っこ協会、癒しの子育てネットワーク信州の小林夕香先生をお招きして講座を計画しました。小林先生は15年前にも公民館講座の子育てセミナーで講演頂いています。子育て中の方だけでなく、大勢の方に心を癒していただけたらと思います。

〔日時〕 3月15日(日) 午前10時から
〔場所〕 栄村公民館こらっせ 入場無料

編集後記

ぼけたリンゴのシャキシャキ感を復活させてより美味しく食べるにはどうしたらいいのか？雪の中にしばらく(ビニール袋にいれて)埋めておくことで本当に食感が良くなった！と楽しそうに話す編集委員Kさん。雪国に住むだけで、シワシワ肌もシャキッと瑞々しく若返っていけばなあ皆で笑う、そんな和気あいあいとした編集会議の1コマでした。

市民の皆様、新年もよろしくお願ひ申し上げます。(希)

